

「新常態」半導体産業を支える安全・サポート

○吉崎教裕^{1,2} (1.キヤノン、2.SEAJ 日本半導体製造装置協会)

E-mail: yoshizaki.norihiro@mail.canon



新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年世界国別のGNPはおおむねマイナス成長であった。2021年も世界経済として不確実性が高い状態が続くと予想されているが、半導体市場ではWSTS(世界半導体市場統計)などの各調査を見回しても平均10%増の成長と好調な予測となっている。このように半導体製造装置の市場環境としてはテレワークや巣ごもり需要の増大や、5G通信の本格実用化に向けた設備投資の堅調さによって設備投資は好調であり、中国、韓国、台湾、日本などのアジア圏を中心に今後も相当額の設備投資が期待されている。

半導体産業に従事するエンジニアにとっての魅力は、日本の製造装置・材料・部品は国際的にも優位性があることであり、その最先端技術を通して一足早く社会を見渡せることは、「やりがい」や「面白さ」が実感できることであり、是非とも次世代へ継承していきたいものである。

『SEAJ 安全・サポート部会』では3つの委員会を通じて業界で働く技術者、研究者が安全で事故がない快適な環境を提供するために「事故ゼロ」を目指した活動をしている。『サービス専門委員会』では会員企業からの情報を調査分析しダイバーシティ化、多様性の提案や作業品質向上を目指した活動、『安全専門委員会』では「災害発生後のクリーンルーム入室作業ガイドライン」「(業界の) 新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」「エンジニアの安全対策ガイドライン」などを策定し、『安全教育専門委員会』ではクリーンルームという特殊環境の危険性を網羅した「SEAJ 推奨安全教育」を策定している。2002年に活動を開始して受講者は7万人を超え適宜教育体系を更新しながら安全啓発をしてきた。これら活動は他団体からも興味をもっており、最近では安全に関心のある大学、研究機関、海外メーカーから情報提供の問い合わせが増えている。



コロナ禍の影響のひとつに国際的な人の往来制限がある。ビジネス上必要な人財については、国際的な政府間交渉により例外的に往来制限を緩和する措置がとられているが単独企業の努力だけでは解決できないことが多い。海外においては若干の法的な要求事項や習慣の違いがある場合もあり、安心してビジネス往来していくためには、まさに「新常態」におけるビヘイビアを醸成させておく必要がある。安全とは単に心構えにあらざ実践と行動が大切であることから、「自分の身は自分で守る」など統一した意識と基準を明確にすることでグローバル人財が安心して活躍できるようにする。そして就活生の皆さんにも安心してこの業界に飛び込めるようにしていきたい。

以上